



Japan International Education Society

日本国際教育学会

第34回研究大会 開催要項

日程：2023年9月30日（土）・10月1日（日）

会場：関西大学千里山キャンパス

主催：日本国際教育学会

後援：吹田市教育委員会

大会実行委員長より（ご挨拶）

日本国際教育学会第 34 回研究大会を、下記の要領にて、関西大学千里山キャンパス（会場 第1学舎 5号館(E棟)）にて開催させて頂くことになりました。会員の皆様のご参加をお待ち申し上げております。今大会においては、原則「対面式」での開催を予定しております。また、昨今の経済情勢に鑑み、**学生会員の参加費を「無料」**とさせて頂きますので、会員の皆様には、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 34 回大会実行委員長 赤尾 勝己

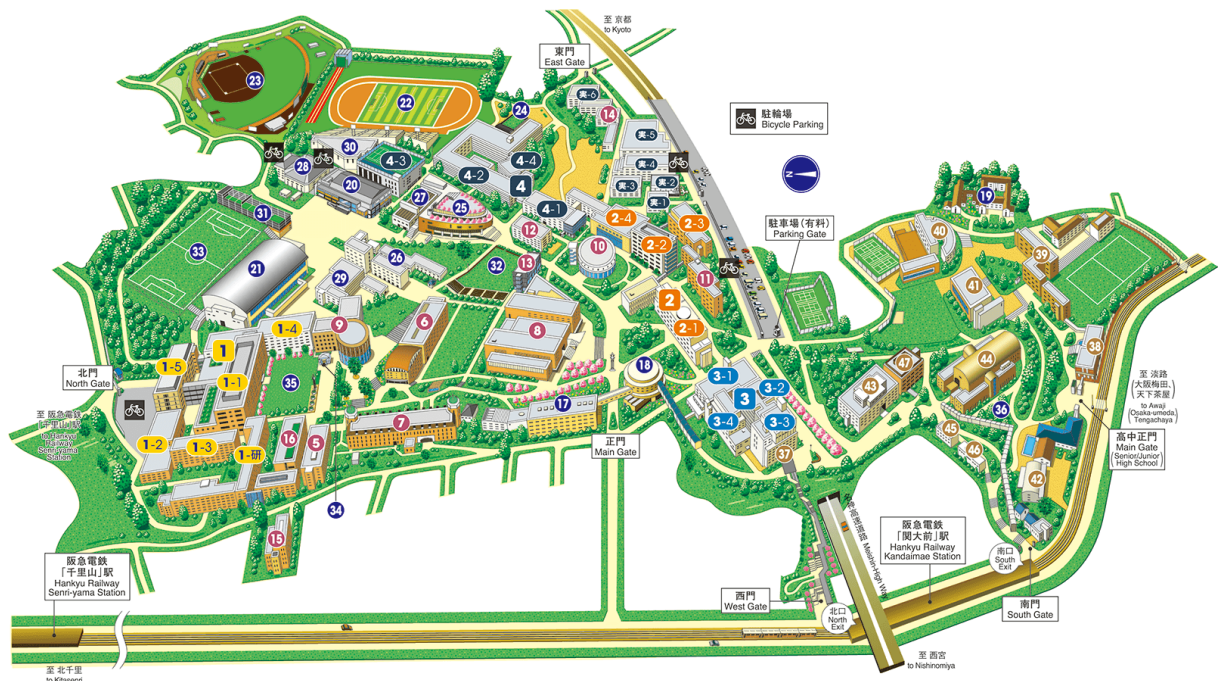
1. 日程

2023年9月30日（土）10時 ～10月1日（日）15時

2. 会場

関西大学 千里山キャンパス（第1学舎 5号館(E棟)）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 E-mail: jies34th@gmail.com



交通手段および移動：

○阪急千里線「関大前」駅 下車

※JR「新大阪」駅から大阪メトロ御堂筋線「なかもず」方面行きで「西中島南方」駅下車→阪急電車に乗り換え「南方」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車

関西大学 web「交通アクセス（千里山キャンパス）」をご覧ください。

<https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/campus/>

*ホテルはご自身でご予約下さい。関西圏内、大阪近郊のホテルは混み合っており、値段設定も幅広いため、ご自身でのご予約をお願いします。

3. 開催方法

大会は、原則「対面式」で開催します。

*感染症の蔓延等やむを得ない事情により、開催方法が「オンライン」(Zoom)等に変更される場合は、8月末日までに最終決定し、「大会プログラム」および学会HP上にてお知らせします。

4. 大会日程

9月30日(土)

時間	プログラム	場所
9:30~10:00	受付	第1学舎 5号館(E棟)3階 E306 教室前
10:00~12:00	自由研究発表 I	第1会場 (E502 教室) 第2会場 (E301 教室) 第3会場 (E302 教室) 第4会場 (E303 教室)
12:00~	昼休み	*昼食は各自でご用意下さい。
13:00~15:00	公開シンポジウム	E502 教室
15:15~16:15	総会	E502 教室

10月1日(日)

時間	プログラム	場所
9:30~10:00	受付	第1学舎 5号館(E棟)3階 E306 教室前
10:00~12:00	課題研究発表	E502 教室
12:00~	昼休み	*昼食は各自でご用意下さい。
13:00~15:00	自由研究発表 II	第5会場 (E502 教室) 第6会場 (E301 教室) 第7会場 (E302 教室) 第8会場 (E303 教室)

*会員控室 (E305 教室)・大会実行委員会事務局 (E306 教室)

5. 理事会

9月29日(金)

時間	プログラム	場所
17:00~18:30	理事会	*オンライン (Zoom) にて開催。

6. 参加費

3,000円(非会員の方も臨時会員として参加できます。参加費は同額です。)

*参加費は受付時にお支払い下さい。「公開シンポジウム」のみに参加される場合は無料です。領収書は大会受付時にお渡し致します。

*今大会においては、学生会員の参加費は無料です。なお、情報交換会は予定しておりません。ご理解のほど宜しくお願い致します。

7. 自由研究発表申込

- (1) 発表申込ができるのは、本学会の会員で2023年度(8月1日以降)の年会費を完納している方です。非会員の方は、申込期限までに入会申込の手続きをお願いします。共同研究でプログラムに口頭発表者を示す○がつかない場合も例外ではありません。

(2) 申込期間：7月1日（土）～8月7日（月）

(3) 発表申込は上記の期間中に、大会実行委員会宛のE-mail [jies34th@gmail.com] に下記必要事項を記入し、ご送信下さい。

①件名を「第34回大会発表申込（発表者氏名）」とし、

②本文に「氏名」「所属」「発表題目」「PC使用の有無」を明記して下さい。

*お申込の際のE-mailアドレス宛に、実行委員会事務局より「受領確認メール」をお送り致します。8月11日（金）時点で「受領確認メール」が届かない場合は、大会実行委員会宛にご照会下さい。なお、参加費は大会受付時に申し受けます。

*発表に際しPC使用の場合、パソコンは各自でご用意（お持ち込み）下さい。会場備え付けの授業支援用PCは、セキュリティの関係上学内関係者以外使用不可です。なお、プロジェクターは利用できます。

③発表日や発表順は大会実行委員会で決定させていただきます。ご希望等は受付致しかねますので、予めご了承下さい。

8. 発表当日の留意事項

配付資料は、発表者が事前に各自印刷（40部程度）の上、会場にご持参願います。

9. 発表時間および発表要旨・発表資料

(1) 発表時間

個人研究／口頭発表者が1名の場合の共同研究 → 発表20分 質疑応答10分

口頭発表者が2名以上の場合の共同研究 → 発表40分 質疑応答20分

(2) 発表要旨原稿は8月1日（火）～8月31日（木）までにご提出下さい。

自由研究発表を申し込まれた会員は、下記の発表要旨集録原稿作成要領にしたがって原稿を作成し、大会実行委員会宛 [jies34th@gmail.com] にE-mail（添付ファイル、PDF形式）にて、ご提出下さい（8月31日必着）。

*件名を「第34回大会発表要旨集録原稿（発表者氏名）」として下さい。

*お申込の際のE-mailアドレス宛に、実行委員会事務局より「受領確認メール」をお送り致します。9月8日（金）時点で「受領確認メール」が届かない場合は、大会実行委員会宛にご照会下さい。

(3) 発表要旨集録原稿作成要領

①原稿締切 2023年8月31日（木）必着

②原稿サイズ A4 縦長 横書き

③ページ設定 文字数 40字、行数 38行、余白 上下左右ともに 25mm

④ページ数 口頭発表者が1名：2頁以内 口頭発表者が2名以上：3頁以内

⑤タイトルはセンター揃え、名前は右揃えです。

1 ページ目は以下のように設定して下さい。

・1行目：タイトル

・2行目：サブタイトル ※サブタイトルがない場合は詰めて下さい。

・3行目：空ける

- ・ 4 行目：氏名（所属） ※共同研究の場合、複数の氏名（所属）は
1 行にまとめず、1 人ずつ行を変えて記載し、
口頭発表者の氏名の前に○印を記載して下さい。
- ・ 5 行目：空ける
- ・ 6 行目：本文開始 ※サブタイトルの有無や共同研究者の有無によって
本文開始位置は変わります。

⑥フォントは、MS 明朝・12 ポイントです。
基本的にはご提出いただいた原稿のまま印刷しますが、
全体のレイアウトは大会実行委員会で編集します。

※下記参考例 1～3 をご参照下さい。

〈参考例 1〉

タイトル —サブタイトル—	国際花子（〇〇大学）
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から……………	

〈参考例 2〉

タイトル	国際花子（〇〇大学）
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から……………	

〈参考例 3〉

タイトル	○国際太郎（〇〇大学） 国際花子（△△学校）
本報告は、日本の教育改革の歴史的発展を国際比較の観点から……………	

10. 課題研究

共生社会の実現と国際教育— —多様な担い手の育成・確保の観点から—

- 報告1 吉田 尚史 (福岡女学院大学)
基準カリキュラムにおける共生・多様性と教員養成カリキュラム
- 報告2 渡部 孝子 (群馬大学)
学校教育現場に求められる多様性の受容
- 報告3 石井 由理 (山口大学)
共生社会における教師の役割—教員養成課程ができること
- 司会 栗栖 淳 (国士舘大学)

<趣旨>

2016(平成28)年『科学技術基本計画』で提唱された「Society5.0」の概念は、AI や IoT、ビッグデータの活用などの科学技術が我々の生活に浸透し活用される社会像を描くとともに、現状認識として地球規模の経済・社会的課題への取り組みを前提としたものであった。この認識は 2015 年国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」における全世界的な課題と呼応し、今後の教育の在り方が問われる際の論点を提示するものであった。

これらに共通して取り上げられる課題、持続可能な開発計画に向け、多様性を前提とした共生社会の実現の理念と取り組みは、学校教育におけるカリキュラムの編成においても重要な影響をもつものと捉えられる。日本の文脈では 2017(平成29)年の基準カリキュラムの改訂の際に「グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、子供たちの成長を支える教育の在り方も、新たな事態に直面していることは明らかである」との認識が示されている。

これらの課題に取り組むため共通の認識と実践が学習活動をデザインし実践する多様な担い手の育成・確保に求められると考えられる。従って本課題研究では共生社会の実現と国際教育を多様な担い手の育成・確保の観点からテーマとしその課題と展望を検討する。

11. 公開シンポジウム

外国人市民への生涯学習支援と多文化共生 —関西地方の実践を中心に—

□報告1 新矢 麻紀子 (大阪産業大学)

外国人のリテラシーの保障と補償に向けて —「生活の漢字」の取組から—

□報告2 山野上 隆史 (公益財団法人とよなか国際交流協会)

ともに学ぶ場づくりの実践—とよなか国流の取組から—

□報告3 榎井 縁 (大阪大学)

自己実現のためのことばを育むために—大阪の枠校の取り組みから—

□司会 赤尾 勝己 (関西大学)

<趣旨>

近年、出入国管理法の改正によって、新たに多くの外国人労働者が日本社会に移住しつつある。そうしたなかで、地域において外国人の子どもや成人と、共に生きていくことが私たちの生活上の課題となっている。本公開シンポジウムでは、多文化共生に基づいた学習支援がどのように実践されているのかについて、3名の登壇者から報告をいただき、その意義と課題を明らかにしていきたい。

まず、大阪産業大学の新矢麻紀子先生からの報告である。日本語は世界の言語のなかでも複雑な文字・表記体系を有しており、日常会話が自然習得可能であるのに対して、書記言語は自然習得がほぼ不可能である。そうしたなかで『生活の漢字』を考える会は、2006年から文化庁の日本語教育事業予算を得て、読み書きに困難を抱える「生活者としての外国人」を対象として「生活の漢字」教室を開催してきた。ここでは、外国人に一方的にリテラシーの習得を迫るだけでなく、地域日本語教室がそして地域コミュニティが、日本人と外国人が対等でともに寄り添い支え合う場所となり、多文化共生を実現するために何ができるかについて議論したい。

次に、とよなか国際交流協会の山野上隆史様からの報告である。同協会の事業には多くの外国人が参加しているが、約30の事業を約400人のボランティアと運営している。まず学習の場として日本語交流活動がある。ここで自信をつけた人に、地域の子どものための国際理解プログラムの講師や小中学校での国際理解教育の授業の講師をお願いしている。さらに力をつけた人が外国人市民会議に参加したり、市の福祉部局関連の委員会に参加するなどして、活動の場を広げていく。最初は、支えてもらうことが多かった段階から、徐々に創り出す側、周りを巻き込む側へと軸足を変えていくなかで元気になっていくのである。お互いの関係性が変化していくなかで、一人でも多くの方が居場所と役割を見つけられるように、同協会は取り組んでいる。

最後に、大阪大学の榎井縁先生からの報告である。大阪の高校の現場では、長年マイノリティの子どもの教育保障が課題として挙げられており、1980年代末には外国人の生徒にも援用されることになった。現在、大阪府内には8つの枠校（「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校）が設置されている。2022年度から枠校となった大阪わかば高校は、府内で唯一の多部制・単位制Ⅰ・Ⅱ部制の高校で、日本語に関する学校指定教科「自己実現のための日本語」を新設している。本報告では、これと並行して行われている教科外活動として「つながる力を育む活動」にも着目する。地域とつながる活動のなかで変化していく生徒の姿について報告し、自己実現するために育むことばについて共に考えていきたい。

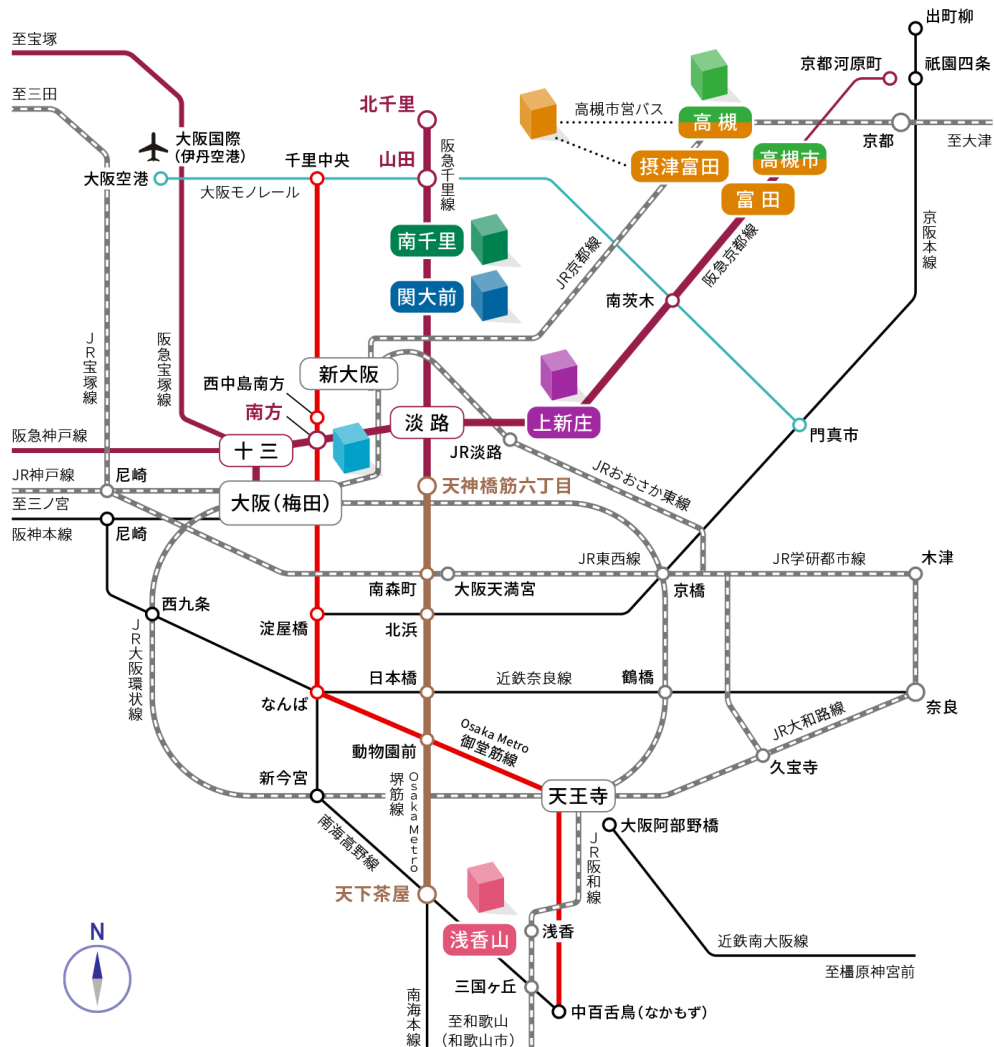
12. 大会実行委員会事務局連絡先

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部

赤尾勝己研究室「日本国際教育学会 第34回大会実行委員会」

お問い合わせ先 E-mail: jies34th@gmail.com

実行委員長 赤尾 勝己 (関西大学)
 事務局長 田中 潤一 (関西大学)
 事務局次長 木田 竜太郎 (関西福祉科学大学)
 実行委員 大谷 杏 (福知山公立大学)
 実行委員 今井 貴代子 (大阪大学)



※「関大前」で下車してください。